

金剛寶戒寺便

<https://www.houkaiji.jp>

令和二年八月一日発行 第七十七号

檀信徒の皆さまこんにちは。七月上旬の豪雨によりお亡くなりになられた方、被災された方々にお悔やみとお見舞いを申し上げます。七月の講習会では「お釈迦様のお悩み解決方法」と題して四諦八正道の説明をメインにお話させて頂きました。そもそも宗教や哲学とは今回の豪雨被害のように受け入れ難い事実をどの様に考え対処するかという所にその起源が有るように思えます。

仏教では悩みの原因である「苦」を「思うがままにならない事」と定義し、その根本は無明（無知）にあるためであると説きました。そして「苦」の代表格として四苦八苦をあげています。四苦八苦とは当に人生において避ける事の出来ない苦しみです。肉体的な苦しみとして生老病死。精神的な痛みとして、愛別離苦（愛する人ともいつかは別離する苦しみ）怨憎会苦（うらみ憎しみある人とも会わなくてはならない苦しみ）求不得苦（求めても手に入らない苦しみ）五蘊盛苦（心身が思い通りにならない苦しみ）を説いています。

老いや病、生き死になども経験値ですから決して悪い側面ばかりではありません。自分や身近な人たちの生老病死を間近にする事により、人間としての深みや、魅力を増していく事は皆さんも御承知のことと思います。日

常においてこそ、その様な客観的事実を心のどこかに置いておく必要があると私は思います。

四諦八正道の「諦」とは「あきらめる」です。原語において「真理」という言葉に対してこの「諦」という漢字を当てています。悩みや苦しみが人間の執着から発生するとの根本原理がここに表されているのかもしれない。

四諦とは①苦諦②集諦③滅諦④道諦のことです。私たちは心に悩み苦しみを抱えている時に思いのほか漠然とその痛みを持ち続けている事が多いものです。そこで極めて客観的に①で現状を知り、②において原因を知り③では悩みを解決した後を知り④では原因の解決方法をしるという様に段階的に分析するよう考えていきます。そして八正道とは苦しみの原因を取り除くための八つの実践方法になります。

昨今で有れば①私たちは非常に新型コロナウイルスを脅威に感じています。②その原因は相手が見えず、死に繋がる病気であるという事。③新型コロナウイルスを終息することが出来れば発生以前の生活に戻ることが出来る④としてはウイルスについて客観的に知るという事。ではないかと私は思います。

新型コロナウイルスが発生してから半年がたち致死率などのデータも少しずつ揃ってきています。日本においては国民や医療機関の努力によりパンデミックを抑え込んでいると

思います。現段階において死者数などを調べると、交通事故者数と比べると二分の一以下。交通事故の重傷者数においては百分の一以下、自殺者数との比較では二十分の一以下です。まだまだ未知数の部分は有りますがインフルエンザと比較しても死者数で三分の一以下です。クチンや抗ウイルス薬の早期開発が望まれますが、冷静に考えるとその様な中でも日本では致死率を抑えているとも言えます。

薬の開発までは少し時間が掛かるかもしれませんが。今の私たちに出来る事は必要以上に畏れることなく感染者への誹謗中傷や風評被害を広めない事です。感染方法は風邪とほとんど変わりません。誰にもその可能性がありません。現実に感染者が退院後に引越をしたり、自殺に至った人もいます。ウイルス以上にひと目が恐怖となつては本末転倒、脳がウイルスに犯されている事になります。悩みを解決する八正道の実践方法は又の機会に譲りますが、その一番目は正見、「正しい見解です。」コロナ禍を配慮して盆月恒例の千巻心経と供養盆踊りはお休みたいします。九月の講習会を行います。

日時 九月八日（火曜日）十四時から

場所 金剛宝戒寺 本堂に於いて

演題 お釈迦様のことばと瞑想

みなさまと共に頑張りましょう。

合掌